

TruPhase の活用(19) —音源の位相確認(19)—

1. はじめに

TruPhase の位相反転機能を利用して音源の位相確認を行っていますが、前報(18)に引き続き CD の位相確認を行います。

2. TruPhase の位相反転機能による音源の位相確認計画

前報(8)と同様、前報(1)と同じ経路で CD の位相確認を行いつつ、バッハの CD を聴いていきます。

CD ドライブ→fidata HFAS1-S10→Brooklyn DAC+→TruPhase
→300B シングルアンプ

試聴した CD 音源は、バッハの作品で下記のとおりです。

harmonia mundi HMX290163435

J.S.Bach ブランデンブルク協奏曲
ベルリン古楽アカデミー

harmonia mundi HMC90217677

J.S.Bach ブランデンブルク協奏曲
フライブルグバロックオーケストラ

CHNNEL CLLASICS CC SSA 38316

J.S.Bach フーガの技法

Racher Podger

Brecon Baroque

3. TruPhase の位相反転機能による音源の位相確認結果

上記 CD について、Brooklyn DAC+での位相反転と TruPhase での位相反転の結果が同じになるかどうか焦点です。

音量調整を容易にするため、Brooklyn DAC+では位相反転させず、TruPhase で位相反転させた状態で TruPhase のボリュームを固定し、TruPhase での位相反転では、Brooklyn DAC+でのボリュームでの調整だけにしました。

そして、Brooklyn DAC+では位相反転させないで、TruPhase での位相反転有り無しで聴いていきます。

ベルリン古楽アカデミーのブランデンブルク協奏曲は、位相反転させますと、定位が曖昧になり、音の焦点がぼやけます。位相反転させないと、定位がしっかりして、個々

の古楽器の質感が明瞭になります。

フライブルグバロックオーケストラのブランデンブルク協奏曲は、位相反転させますと、定位が曖昧になり、音の焦点がぼやけます。位相反転させないと、定位がしっかりして、個々の古楽器の質感が明瞭になることは、ベルリン古楽アカデミーと同様ですが、同じ曲を聴いても重厚なベルリン古楽アカデミーの演奏に対し、近代的で明るいフライブルグバロックオーケストラの演奏であることが分かります。

Racher Podger & Brecon Baroque のフーガの技法は、位相反転させますと、定位が曖昧になり、音の焦点が定まりません。位相反転させないと、ノンヴィブラートのヴァイオリンとバックのアンサンブルの音の粒立ちが明瞭になります。

4. まとめ

上記3盤とも正相であることが分りました。

以上